

一般財団法人 全国盲導犬協会 平成 28 年度事業報告書

1. 訓練業務／認定業務

以下の業務は、当協会の本来の業務（盲導犬育成）としておこなったものである。

1.1 適性審査

1 頭の訓練犬について、平成 29 年 3 月 9 日に 2 名の歩行指導員が審査をおこない、盲導犬としての使役に適すると判断した。この 1 頭については、その使用者候補の歩行指導（第 4 期）を本年度末から次年度初頭にかけて実施することとした。

1.2 使用者候補の人選

平成 28 年 3 月 18 日（平成 27 年度）に適性審査を通過した 2 頭の訓練犬のうち 1 頭について、経験、生活環境、使用環境、必要性などの要素を考慮し、その使用者となる人物の選定をおこなった（他の 1 頭については平成 27 年度中に選定済み）。平成 29 年 3 月 9 日に適正審査を通過した 1 頭についても、その使用者となる人物の選定をおこなった。

1.3 歩行指導

平成 28 年 3 月 18 日に盲導犬適性審査を通過した訓練犬 2 頭、並びに平成 29 年 3 月 9 日に盲導犬適正審査を通過した訓練犬 1 頭について、その使用者候補 3 名への歩行指導（合宿訓練）をおこなった：

- ・ 第 2 期：平成 28 年 5 月 9 日～5 月 28 日
- ・ 第 3 期：平成 28 年 9 月 14 日～10 月 1 日
- ・ 第 4 期：平成 29 年 3 月 19 日～4 月 4 日（平成 29 年度）

1.4 認定

上述の使用者候補、並びに訓練犬について、所定の審査と試験を実施したうえで、盲導犬使用者、並びに盲導犬と認定した：

- ・ 認定番号：CGDO_2801/002（平成 28 年 5 月 28 日；当協会盲導犬第 2 号；長野県）
- ・ 認定番号：CGDO_2802/003（平成 28 年 10 月 1 日；当協会盲導犬第 3 号；東京都）

1.5 フォローアップ

上述の使用者を含む、当協会の盲導犬使用者に対して随時、フォローアップ（貸与後に発生する問題について、その原因の調査と問題を解決するための助言や指導）を実施した。

1.6 委託契約

認定番号：CGDO_2801/002 の盲導犬は、長野県（身体障がい者補助犬給付事業）の委託により育成された。

1.7 子犬の購入

平成 28 年度には合計で 10 頭の子犬を盲導犬、もしくは繁殖犬の候補犬として購入した。

1.8 繁殖犬の確保

訓練中の 1 頭（種牡）を繁殖犬として確保した。前年度の確保した 1 頭（台牝）と合わせて当協会が保有する繁殖犬は 2 頭となった。

1.9 子犬飼育奉仕者、進路変更犬引取希望者、繁殖犬飼育奉仕者の募集、面談、飼育指導

募集チラシの作成配布やホームページ上での案内などを通じて希望者を募った。当協会の施設内、または飼育奉仕者宅にて職員が随時飼育指導をおこなった。3 月 31 日現在、子犬飼育に関しては、10 名が稼働中、4 名が待機中、進路変更犬引取に関しては、10 名が引き取り済み、6 名が待機中、繁殖犬飼育に関しては 2 名が稼働中、待機中は 0 名となっている。

1.10 犬の訓練（基本訓練、誘導訓練）及び飼育（通院等の健康管理を含む）

平成 28 年度には 18 頭の犬に対して、盲導犬の訓練犬としての飼育、及び訓練をおこなった。

一覧：訓練の状況（平成 29 年 3 月 31 日現在）

平成 28 年度に飼育・訓練した犬				平成 28 年度に購入した犬（子犬）
18				10
GD	CC	TR	BD	PW
2	10	4	2	10

※ GD=盲導犬認定済／CC=進路変更引渡済／TR=訓練中／BD=繁殖犬／PW=子犬飼育奉仕者宅預け

※ 訓練中の 1 頭を繁殖犬とし、他 1 頭の繁殖犬と共に本年度途中まで施設内で飼育・訓練（その後、繁殖犬飼育奉仕者宅預け）。

※ 平成 27 年度より広報犬の協会内飼育おこなわず、訓練犬を、または協会の指定した進路変更犬を囑託広報犬として広報啓発業務に帯同している。

一覧：保有犬の状況（平成 29 年 3 月 31 日現在）

盲導犬	訓練犬	繁殖犬	子犬	合計
3	4	2	10	19

1.11 後進の育成・指導

当協会の訓練士・歩行指導員養成計画に基づき、研修生 2 名の教育をおこなった。

1.12 盲導犬貸与希望者への説明

盲導犬の貸与を希望する視覚障害者 6 名に対し、当協会の盲導犬についての説明をおこなった。

2. 広報啓発業務

以下の業務は、日本における盲導犬育成事業全般、ならびに当協会の盲導犬育成事業に対して社会の理解を求める目的でおこなったものである。

2.1 学習会・見学会の開催

一般の希望者を募り、定期的に施設内で学習会・見学会を開催した。臨時の学習会を含め平成 28 年度は 8 回の開催となった。主な参加者は次のようであった：一般希望者、県内のライオンズクラブ会員

2.2 出張講話・デモンストレーション

視覚障害と盲導犬についての講話（一部、実演を含む）を、依頼を受けて 9 回おこなった。講話の主な対象者は次のようであった：企業（新入）社員、小学生、中学生、高校生、父兄、教員、社会福祉協議会が主催する福祉関連イベントの参加者、市民団体が主催する福祉関連イベントの参加者

2.3 イベント参加

行政、企業、団体、個人が開催するイベントに職員、役員、広報犬が参加し、広報啓発活動を展開した（9回）。主な参加先は次のようである：県内のライオンズクラブの活動、企業や行政が主催する地域の祭やイベント（運動会等）

2.4 メディアを通じての事業紹介

ラジオ（茨城放送）、社内報（株式会社日立ビルシステム）、企業広報誌（株式会社ペットの郷）にて、当協会の事業内容が紹介された。

2.5 チャリティーイベントの開催

当協会が主体となり、視覚障害と盲導犬に関する啓発を主たる目的としたイベントを次のように開催した。

2.5.1 チャリティーコンサート（平成 28 年 6 月 12 日／ひたちなか市／対象：70 人）

当協会の職員と親交のある演奏家を招聘しクラシックのコンサートを開催、楽曲間に訓練部職員や盲導犬使用者の講話を挟むことで、参加者に盲導犬育成事業に関心を持ってもらえるよう務めた。

2.5.2 盲導犬写真パネル展（平成 28 年 7 月 21 日～26 日／水戸市／対象：2500 人）

株式会社水戸京成百貨店の協力を得て、同百貨店の催事場に盲導犬に関する写真（撮影：小沼渉氏）を大判パネルで展示し、来店者に盲導犬育成事業に関心を持ってもらえるよう務めた。

2.5.3 チャリティードッグフェスタ（平成 28 年 5 月 15 日／水戸市／対象：300 人）

愛犬家団体「水戸フライングドッグクラブ」の協力を得て、同クラブのドッグランにて犬に関する催し（盲導犬訓練実演／家庭犬しつけ実演／競技犬競技実演、愛犬撮影会など）をおこない、来場者（主に愛犬家）に盲導犬育成事業に関心を持ってもらえるよう務めた。

2.6 「ローリー基金」との共同活動

当協会の支援ボランティアグループである「ローリー基金」の活動へ職員、役員、広報犬を派遣するなどして、同グループの活動の効果が向上されるよう図った。主な活動は次のようである：定期街頭募金活動協力 10 回、臨時街頭募金活動協力 7 回、バザー開催協力 2 回

2.7 資料配布

上述した機会において、日本の盲導犬育成事業全般、ならびに当協会の盲導犬育成事業の概要をまとめた資料「配布用資料」（年度内に 3800 部印刷）、並びに「協会だより（第 4 号）」（7 月発行；年度内に 4800 部印刷）を配布し、盲導犬育成事業への社会の理解がより深まるよう務めた。

3. 財源強化充実のための取り組み

広報活動を通じて個人、団体、企業へ支援の働きかけをおこなう他、安定した運営資金を確保するため以下の取り組みをおこなった。

3.1 募金型自動販売機の増設

飲料販売会社（株式会社ライズ）の協力により、当協会の募金型自動販売機の増設がおこなわれた：平成 28 年度には新たに 1 設置主と契約を結び、合計で 14 設置主となった（新規設置台数 2 台、引上げ 2 台、3 月 31 日現在の設置台数 20 台）。

3.2 賛助会員の募集

平成 27 年度に発足した当協会の（新）賛助会員制度について引き続き会員を募った。平成 28 年度には 3 の個人、または法人から申し込みを頂いただき、合計で 11 会員となった。

4. 寄附金の使途報告

ここでは平成 28 年度の寄付金・助成金のうち、具体的な使途の報告が条件であった寄附金・助成金について、その金額と使途について報告する。

- ・ かすみがうらマラソン大会実行委員会からの寄附金（573,075 円）
- ・ 公益信託東京日本橋ライオンズクラブ立川福祉基金からの助成金（297,000 円）

以上の寄附金・助成金は、平成 28 年度に盲導犬候補、または繁殖犬候補として購入した子犬 10 頭の購入費（995,000 円）の大部分に充当した。

5. その他

5.1 役員会の開催

理事会、ならびに評議員会を以下の日程で開催した：

理事会		評議員会	
第1回	平成28年6月7日(火)	第1回	平成28年6月7日(火)
第2回	平成28年12月13日(火)	第2回	略式
第3回	平成29年1月15日(火)	第3回	略式
第4回	平成29年3月7日(火)	第4回	平成29年3月7日(火)

以上、略式を除く全ての役員会は協会訓練施設にておこなわれた。

5.2 かすみがうらマラソン兼国際盲人マラソン

盲導犬育成施設4施設を代表し(輪番制)、第26回かすみがうらマラソン兼国際盲人マラソンの一環として土浦駅のコンコースに「一頭の子犬が盲導犬としてデビューするまで」をテーマに写真パネルを展示した。また、同大会の広報誌にて代表理事の斉藤が挨拶をおこなった。

5.3 盲導犬訓練基準・対象者基準あり方検討会

社会福祉法人日本盲人社会福祉施設協議会自立支援施設部会盲導犬委員会の「盲導犬訓練基準・対象者基準あり方検討会」(平成29年2月1日)に訓練施設長の中野と代表理事の斉藤が参加した。

5.4 他団体主催の行事等への参加(広報啓発業務以外)

助成金、目録等の受け取りや当協会の自己紹介、挨拶をおこなう目的で、他団体の主催する行事に職員、または役員と広報犬が参加した(約20回)。主な参加先は次のようである：ライオンズクラブの周年行事や例会、ロータリークラブの例会、かすみがうらマラソン大会、仏寺主催の法事(常光院水戸精舎)

以上、平成29年5月30日、平成29年度第1回理事会にて決裁、同評議員会にて承認